

令和5年度第2回千葉市図書館協議会議事録

1 日 時 令和6年1月31日(水) 10時00分～11時10分

2 場 所 千葉市消費生活センター3階 研修講義室

3 出席者

(1) 委員

吉野知義 委員長・松尾修一 副委員長
熊井知子 委員・古賀義明 委員・萩原忠 委員
松崎萌 委員・三上浩司 委員・本杉みゆき 委員

(2) 事務局

佐久間中央図書館長・真田中央図書館管理課長
内海生涯学習振興課長・平岡中央図書館情報資料課長
及川若葉図書館長・坂入中央図書館管理課長補佐

(3) 傍聴人

12人

4 議 事

千城台公民館・若葉図書館の再整備について

5 概 要

- (1) 千城台公民館・若葉図書館の再整備について〔事務局説明〕
- (2) 質疑応答

6 会議経過

<開 会>

- 委員の出欠報告及び会議資料の確認
- 中央図書館長あいさつ
- 事務局より協議会の成立について報告
- 会議の公開について

<議事>

千城台公民館・若葉図書館の再整備について

【事務局からの説明】

真田中央図書館管理課長
資料に基づき、説明

【質疑応答】

本杉委員

ロビー・共有スペースは1階図書館あるいは2階公民館のどの部分に配置されるのか伺いたい。

佐久間中央図書館長

具体的なゾーニングはこれから設計業務において検討していくが、現時点では、駐車場に近い2階公民館の入り口付近への設置をイメージしている。

本杉委員

図書館の多目的室を公民館へ統合することだが、図書館の定例的なイベントのほか、突発的なイベントで利用する場合、部屋を確保できるのか。

また、千城台駅周辺に返却ポストを設置予定とのことだが、返却された図書の仕分けは誰が担当し、返却された図書の仕分けスペースをどこに設置するのか伺いたい。全体的にゆとりのある設計が必要と思う。

佐久間中央図書館長

定例的なイベントについては、花見川図書館・こてはし台公民館が先行事例となるが、公民館の各利用団体との年間スケジュールの利用調整の際、事前調整を行っていく。花見川図書館の事例では、読書まつりが急遽の調整となったが、今後は事前の利用調整を入念に行っていきたい。突発的なイベントについては、空きのある会議室の中で調整を行っていく。

返却ポストに関し、返却された図書の仕分けについては若葉図書館の職員が担当する予定であり、若葉図書館内に図書の仕分け等に活用できる作業スペースの設置を予定している。

三上委員

2点伺う。

1点目は、複合施設では図書館が中心的役割を担うと考えるため、設計の際、図書館に精通した事業者への委託が必要と思うが、事業者選定の進め方を伺いたい。

2点目は、再整備後、複合施設として公民館・図書館が併設される形になり、公民館利用者が図書館に立ち寄りといった効果が期待できるが、市の既存施設において、こうした効果を示すデータ等があれば伺いたい。

佐久間中央図書館長

1点目について、来年度から設計に着手できるよう準備を進めている段階である。い

ただいたご意見のような事業者へ委託できるよう努めていく。

2点目については、お示しできるデータはないが、花見川図書館・こてはし台公民館の場合、1階を図書館、2階を公民館として、リニューアルを行った結果、現地の職員からは公民館利用者が帰りがけに図書館に立ち寄っていただく等の効果が表れていると聞いている。

古賀委員

2点伺う。

1点目は、再整備後の若葉図書館のコンセプトにおいて、施設規模のコンパクト化を図り、特定分野の専門的な資料を増やすと示されているが、地元住民からの要望である蔵書の充実にどのように繋がるのか伺いたい。

2点目は、様々な市民意見聴取に取り組まれているが、障害者の方からも意見を聞いたか伺いたい。単にユニバーサルデザインの導入だけではなく、実際に利用する立場の聴覚障害者や視覚障害者といった方の意見を取り入れていく必要がある。

佐久間中央図書館長

1点目について、特定分野の専門的な資料を揃える点は、千葉市図書館ビジョン2040において、地区図書館の方向性として示されており、地元の要望である蔵書の充実とは必ずしも一致しないところもあるかもしれないが、千葉市図書館ビジョン2040の方向性を踏まえ、区の特性を生かした形にしたいと考えている。

2点目について、障害者の方のみを対象とした意見聴取は行っていないが、これまで主に中央図書館で取り組んできた大活字本、点字図書などに加え、さらに今後音声読み上げにも対応している電子書籍サービスを充実させていくことで、読書バリアフリーの実現に向け、一定の効果があると考えている。この点については、若葉図書館のみならず、市内図書館全体で取り組んでいきたい。

古賀委員

市の考えと地元の考えの相違は最も問題となる点であるため、改めてご検討いただきたい。

また、実際に利用する障害者の方からの意見は必要であるし、千城台地区は海外からの移住者の子どもが多いため、こうした方にも配慮しながら、施設整備を進めていただきたい。

佐久間中央図書館長

今回は再整備のハード面を主に報告しているが、蔵書の構成等、ソフト面については、今後よく検討していく。

萩原委員

市民意見聴取において、地元の小中学生からも意見を聞いていただき感謝している。加曽利中学校においても、図書館の資料や職員を活用した授業、地域の方を招いた地域学習、複合施設の部屋の活用等、様々な可能性を感じている。こうした取組みのモデル的な施設となり、多くの小中学生が訪れることを期待している。

本杉委員

3点伺う。

1点目は、施設整備に向けて、実際に働いている職員の意見をどのように反映していくのか伺いたい。今回、新規の整備であるため、なるべく職員の意見を反映した施設としていただきたい。

2点目は、図書館の予約図書受取室について、図書館の開館時間以外で、機器の使い方が分からない方がいた場合、公民館の職員が対応できる形なのか伺いたい。

3点目は、公民館の地域活動拠点について、どのようなものであるか詳細を伺いたい。

佐久間中央図書館長

1点目について、ご意見のとおり若葉図書館の職員には段階ごとに情報共有しながら、施設整備を進めていく。

2点目について、公民館側とこれから調整していく。予約図書受取室は、みずほハスの花図書館及び花見川図書館に設置済の予約棚を開館時間以外でも運用できればサービス拡大につながるのではないかとこの観点から検討を進めてきた。習志野市立中央図書館の先行事例を参考にしながら、図書館の開館時間以外でも利用者へ対応できるよう準備を進めていく。

内海生涯学習振興課長

3点目について、再整備に向けて、千城台地区学校跡施設利活用検討委員会を立ち上げ、地域の方々とともに、公民館・図書館含め、跡地利活用の検討を進めてきたが、公民館・図書館の周辺には、保育所、和陽園、中学校がある点を活かし、公民館・図書館がよりよい地域づくりをリードしていく施設とするため、市民局と調整し、市内初の試みとして地域活動拠点を設けることとなった。

公民館は、これまでサークル活動や講座を通し、地域コミュニティの形成に寄与してきたが、今後は地域の課題解決まで踏み込んでいくため、行政が積極的に地域に関わっていく必要があると考えている。

また、公民館は避難所機能を有しており、避難所を上手く運営するためには、地域の方々の力が必要であり、こうした活動にも活用いただくため、地域活動拠点を設置する

こととした。

本杉委員

社会福祉協議会地区部会や、青少年育成委員会等、地域活動専用の場所はこれまでなかったもので、こうした拠点が確保されることは良いことだと思う。地域活動拠点は、地域の活動以外の場合でも、利用できる部屋になるのか。

内海生涯学習振興課長

地域の活動拠点として、日々地域の方々に立ち寄っていただくような活用を想定している。

松崎委員

2点伺う。

1点目は、公民館・図書館脇の歩道について、段差がある道なのか、あるいは車椅子の方も通行できるようなフラットな道なのか伺いたい。

2点目は、予約図書受取室について、30㎡程度とした根拠を伺いたい。予約本の受取室として、ここまでの広さが必要であるか疑問に感じた。

佐久間中央図書館長

1点目について、詳細は設計業務で検討していく。敷地全体として、北から南にかけて低くなる地形であり、かつ、公民館・図書館及び脇のスロープ部分はちょうど斜面となっており、車椅子でも通行できるよう歩道の勾配に配慮する必要がある。道路から歩道にかけては段差があるものの、歩道部分は車椅子の方でも円滑に移動できるような形をイメージしている。

2点目について、今後の設計で面積に変動があるかもしれないが、みずほハスの花図書館及び花見川図書館の予約棚のスペースを参考に、30㎡程度と見積っている。

三上委員

再整備後、若葉図書館の蔵書数はどの程度を想定しているか伺いたい。

佐久間中央図書館長

新たな一般開架室は、現状の一般開架室と読書室を合わせた面積と同等の規模を確保する予定だが、車椅子の通行等、バリアフリーの観点から、書架間を現状より広く確保する必要があるため、蔵書能力は2割程度落ちると考えている。現在の蔵書の中で、過去数年利用実績のない図書を除籍する等、利用状況に応じた対応を検討していく。

また、利用者の蔵書へのニーズに対応しながらも、地域の特色を打ち出し、若葉区の

図書館としてふさわしい蔵書を目指していく。

本杉委員

再整備後の若葉図書館の職員数について伺いたい。自動貸出機等の導入により、職員数が減ることはあるのか。

佐久間中央図書館長

館内業務としては、自動貸出機や自動返却機の導入により、省力化できる部分はあるが、こうした機器の運用に必要な IC タグの貼付作業が生じるため、単純に業務が減るわけではない。また、周辺施設となる保育所、和陽園、中学校と連携していくため、館外サービスの業務を充実させる必要があると考えている。最終的な職員数は、現時点ではお答えできないが、自動化で省力化できる業務以外に人員を振り分けていくよう考えていきたい。

萩原委員

世界と比べると、日本の避難所の環境はあまり充実していないが、今回の複合施設は、周辺に保育所、和陽園、中学校があり、避難所として様々な可能性を感じる。周辺施設と連携し、福祉避難所や小さな子どもの受け入れ先も兼ねる防災拠点として、モデル的な施設となってほしい。中学校にもマンホールトイレ等、配備されているが、数も少なく、避難所運営の際、不十分と感じている。今回の複合施設の場合、敷地内の斜面を活用して、充実した災害用トイレを設置できると思う。

また、障害者の方やお年寄りの方など、様々な避難者に対応できる先進的な防災拠点となっていくことを期待している。

内海生涯学習振興課長

新たに避難所を設ける形になるため、これまでの避難所機能から強化しなければならないと考えている。敷地内には、防災井戸があり、災害用トイレを設置できる。また、かまどベンチ、マンホールトイレ、駐車場を活用した車中泊対応等、様々な機能を利用できるよう考えている。

また、周辺の保育所、和陽園、中学校との連携を図り、お年寄りの方や小さな子どもにも対応できるような防災拠点としたい。

佐久間中央図書館長

図書館としても、中学校との連携は重視している。小学生に比べ、中学生は読書習慣が定着していない現状のため、例えば地元ゆかりの作家のライトノベルを紹介していく等、読書に親んでもらえるような取組みを行い、中学生が気軽に立ち寄れるような

施設にしていきたい。

吉野委員長

皆様の貴重なご意見に感謝する。再整備後の「地域の活動を支える情報センター」は良いコンセプトと思う。昨今の図書館や複合施設においては、防災拠点等、様々な役割が求められているが、これからの地域の変化や、千葉市の変化など、様々な変化を見据えながら、今後の施設を進めていただきたい。本日の委員の皆様のご意見を今後の施設整備に活かしてほしい。

<閉会>

【問い合わせ】

千葉市教育委員会事務局

生涯学習部中央図書館管理課

TEL 043-287-4081